

## 火山情報と自治体の防災対応：2006年6月桜島噴火の例

### Volcanic Information and Response of Local Authorities in Case of the 2006 Sakurajima Eruption

○ 石原和弘

○ Kazuhiro Ishihara

Activity and response of local authorities and volcanologists before and after the 2006 Sakurajima Eruption are reported., Volcanic information and scheme necessary for mitigation of volcanic hazards are discussed, considering experiences at some volcanoes.

#### 1. はじめに

1972年10月から激化した桜島南岳の山頂噴火活動は1993年頃から急速に減退し、それ以降、桜島北方の始良カルデラで1000万m<sup>3</sup>/年の割合でマグマ蓄積が進行していることが地盤変動観測により確認されている。当面10年以内の山頂噴火の激化、あるいは20～30年後に大規模噴火が予想される状況の中で、2006年6月4日に南岳山頂火口の外側、東斜面の昭和火口から噴火が始まった。この噴火前後の関係者の取り組みや対応を解説し、噴火災害軽減の要件について議論する。

#### 2. 噴火前の取り組み

数十年以内の中～大規模噴火は避けがたいという認識に立って、2004年2月には鹿児島県、関係市町、国土交通省、気象庁、大学等で構成される「桜島火山防災検討委員会」が発足した。その成果のひとつとして、大規模噴火と山頂噴火激化を想定した火山防災マップ改訂版が2006年3月に鹿児島市から出版公表され、住民に配布された。鹿児島市は、5月下旬には防災マップの説明会を開催するとともに、始良カルデラにマグマが多量に蓄積していて、近い将来に桜島で顕著な噴火が発生する可能性を広報誌で紹介した。

#### 3. 噴火直後の対応

6月4日の噴火開始は火山活動研究センター職員により確認され、その通報を受けて気象庁は火山観測情報を発表した。気象庁は、当初「噴火」とせず「ごく少量の有色噴煙」と表現したため、観光客や報道が火口の麓まで立ち入る状況が約10日間続いた。見解の異なる複数の情報が公になるのは好ましくないが、状況を正確に伝えるため、火山活動研究センターは関係機関に事前連絡の上

で、写真等を用いた解説をHPに掲載した。

大学、気象庁等関係機関の調査観測の実施により、「今回の噴火はマグマ噴火であり、小規模な火砕流発生のあるものの直ちの中～大規模な活動に移行する兆候はない」ことが確認され、この評価結果が6月4日の火山噴火予知連絡会で公表され、気象庁は臨時火山情報を発表した。

臨時火山情報を受けて、6月14日に鹿児島県は地域防災計画に規定されている「桜島爆発対策連絡会議」を開催した。同会議は、火山学的評価と社会的混乱の防止の双方に配慮した防災対応を鹿児島市に助言し、同市は、立入規制範囲の一部拡大等の措置をした。事前に活動の高まりが予告され、規制が限定的であったため、住民の受け止め方は冷静であった。

#### 4. 火山災害軽減の方策

今回の桜島の事例や、1977年/2000年の有珠山、1983年/2000年の三宅島、1986年伊豆大島、1988年十勝岳、1990～1994年の雲仙岳の噴火、1998年岩手山の地変や国外の火山の噴火の事例から、火山災害軽減の要件として以下のことが列挙できよう。

火山監視と迅速で的確な評価・情報発信体制  
噴火災害予想区域図の作成・公表

危機時の関係機関と火山専門家の協議の場  
火山学的知見に基づく中長期的な活動評価

これ等が、火山情報発信機関と自治体等の連携の下に、事前にあるいは危機開始後に迅速に実施された有珠山、十勝岳、岩手山等では、防災対応が円滑になされ、これ等がそろわないままに活動を向かえた火山では、犠牲者や、社会的混乱が生じている。現在、 と は順調に進展していて、今後は、 と に重点的に取り組む必要がある。